

《看護ワンテーマBOOK》

説明できるエンゼルケア 40の声かけ・説明事例

小林光恵＝著

定価1890円(本体1800円＋税5%)
医学書院 ☎03-3817-5657



臨床に出て何十年も経っているのに、いまだにうまく臨終を告げることができません。

経験が少ないわけではありません。これまで数えきれないくらいの人の死に立ち合ってきました。かつては、ほんの少し前に出会った人の臨終を、1日に何回も告げたこともありました。在宅での看取りがほとんどになった今は、モニターに囲まれた病院での最期とは異なります。ある程度あらかじめ予想されていた死を目にしたご家族は、それを承認する私の言葉を待つだけです。臨終に際してはこれまでの経験で培った私なりに準備さ

れたスタイルがあり、それに従って告げるだけなのですが、意識しすぎるのかいつもうまく言葉が出なくなってしまうことが多いのです。

それでもどうにか、臨終を告げています。頼りにしているそのスタイルは、正式に教わったものではなく、先輩方のやり方を参考に自分なりに構築したものです。しかし、それが本当に適切なものか、にまで思いを巡らせることは、これまでありませんでした。

死に近く人を医療者として どう見送るか

本書では、患者さんが亡くなられた直後から始まる、医療者の1つひとつの所作について、死後の身体変化とご家族の心情を踏まえて、どのように進めていくかが記された実践の書です。臨終直後の立ち位置、家族への声かけから始まり、点滴・チューブ類の対応、口腔ケア・清拭着替え、メイク、お見送りまで、それぞれ全部で40の実践方法が豊富なカラーイラストとともに記されています。とくに「なぜそれを行なうか(そして行なわないか)」についての声かけ、説明の例が数多く示されているのが特徴です。

著者によると、エンゼルケアとは死後

の身体変化を踏まえ保清や身だしなみの整えを基本として行なうケアのことであり、グリーフ・ケアの意味も併せものである、とのこと。従来、慣例的に行なってきた「死後処置」を、ケアのまなざしをもって評価し直し、それをご家族への説明を通じて共に考えながら再構築していく活動は、医療が人生の最終場面に関与することが圧倒的多数になった今は、きわめて重要なことであると思います。

本書は、病院で行なわれているエンゼルケアの記載が中心ですが、これからは在宅や施設での看取りもますます重要になります。とくに独居高齢者や高齢者のみの世帯の場合、家族以外の第三者の関わりが大きくなります。家族だけではなく、ケアマネジャーやヘルパーを含む多職種が、エンゼルケアを理解することも必要になってきます。ある人の一生のうちでたった一度の瞬間に多くの人々が関わることは、いつかは訪れる自分の大切な人や自分自身の最期のためにも、かけがえない経験になると思います。

本書を通じ、多くの人がエンゼルケアについて考えるようになり、そして多くの看取りの場面に「ケアのまなざし」が浸透していくことを期待したいと思います。